

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援SHIP		
○保護者評価実施期間	2024年9月17日		～ 2024年10月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2024年9月17日		～ 2024年10月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月5日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個人に対する専門的な支援を行うことができている。	毎日の終礼でその日の活動の振り返りと改善等について検討を行っている。	引き続き、終礼で子どもの様子や指導方法、できるようになったこと、難しかったこと等について情報共有し、PDCAサイクルを回していくことができるよう取り組んでいく。また、特別支援教育や療育、障害に関する事業所内での研修も増やしていき、一人ひとりの職員の専門性を高められるよう取り組んでいく。
2	集団活動のプログラムが充実している。	季節に応じた活動を取り入れている。 5領域を意識し、製作活動や運動遊び等バランスよく取り組むことができるよう努めている。	今後も感覚系、運動系、製作系、コミュニケーション系といった様々な集団活動を、1週間単位の単元で取り組んでいく。また、体験活動や実際の場面での経験を積むことができるような取り組みを増やしていく。
3	保護者とのやり取りが充実している。	子どもの様子について文章、写真、必要に応じて動画も送り、伝えるようにしている。 その都度様子を伝えているため、「今」何をしているのか共有することができる。	今後も子どもの様子について随時丁寧に伝えるよう心掛ける。保護者とのやり取りをする中で、見落としや返信のし忘れ等のないよう心掛ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースの狭さ	活動によっては狭く感じる時もある。	今後児童指導室を拡大し、午睡の部屋やクールダウンの部屋として使用できるようにしていく。サーキット運動など広さが必要な活動でも十分確保ができるよう対応していく。
2	地域の学童等との交流が少ない	地域の学童等とのかかわりを深めることが多くはなかった。	利用児童の通学先の学校や、近隣の学校の学童保育と交流することができるよう検討していく。
3	他事業所との交流が少ない	他の事業所と職員や児童がかかわる機会が多くなかった。	今後児童発達支援や放課後等デイサービス、就労系等、形態や地域によらず、連携、交流をしていくことができるよう検討していく。